

平成27年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ヴィレッジヴァンガードコーポレーション

コード番号 2769 URL <http://www.village-v.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 白川 篤典

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 渡邊 正直

TEL 052-769-1150

四半期報告書提出予定日 平成27年1月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年5月期第2四半期の連結業績(平成26年6月1日～平成26年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年5月期第2四半期	21,990	8.6	279	—	295	—	66	—
26年5月期第2四半期	20,240	△0.8	△309	—	△287	—	△531	—

(注) 包括利益 27年5月期第2四半期 111百万円 (—%) 26年5月期第2四半期 △529百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年5月期第2四半期	8.59	8.57
26年5月期第2四半期	△69.09	—

1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、平成25年12月1日付で当社株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行ったことをふまえ、前連結会計年度の期首に同株式分割が行われたものと仮定し、当該数値を算出しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年5月期第2四半期	33,670	12,125	36.0
26年5月期	30,282	12,127	40.0

(参考) 自己資本 27年5月期第2四半期 12,105百万円 26年5月期 12,097百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年5月期	—	0.00	—	14.00	14.00
27年5月期	—	0.00	—	—	—
27年5月期(予想)	—	—	—	14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年5月期の連結業績予想(平成26年6月1日～平成27年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,227	5.8	818	—	809	—	287	—	37.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.5「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.5「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年5月期2Q	7,693,900 株	26年5月期	7,693,600 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

27年5月期2Q	— 株	26年5月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年5月期2Q	7,693,629 株	26年5月期2Q	7,693,600 株
----------	-------------	----------	-------------

(注)発行済株式数については、平成25年12月1日付で当社普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行ったことをふまえ、前連結会計年度の期首に同株式分割が行われたものと仮定し当該数値を算出しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成26年6月1日～平成26年11月30日）におけるわが国経済は、政府による経済対策や日銀の金融緩和策により、為替の円安進行、日経平均株価の上昇など、輸出企業を中心に企業業績は急速な回復をみせるものの、個人消費においては消費税増税後の駆け込み需要の反動減が大きい状況となりました。

このような状況の下、当社グループは、独創的なワン・アンド・オンリーの空間をお客様に提供し続けることにより、「モノを買う」というニーズを満たすだけでなく、「モノとモノの融合、モノとコトの融合」によって「新しい発見」や「買い物の楽しさ」をお客様に提供することをコンセプトとし事業活動を行ってまいりました。

このような方針のもと、店舗運営におきましては、お客様に新しい発見や驚き、楽しさを提供できる空間づくりを合言葉に、業態別・店舗タイプ別の営業施策を推進し、売り場の完成度の追及、POSを使用した商品施策の見直しを行うとともに、店頭以外での在庫処分機会として大規模セール催事の開催など、収益の向上だけにとどまらず、商品在庫の適正化を重点的に進めてまいりました。

店舗出店につきましては、インショップへの出店を中心に推進し、直営店19店を新規出店し、直営店16店、FC店1店を閉鎖しました。その結果、当社グループの当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、直営店531店、FC店12店の合計543店となりました。

このような事業活動の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては21,990百万円と前年同四半期と比べ1,750百万円（8.6%）の増収となりました。利益面につきましては売上高の増加、商品在庫の適正化により売上総利益は増加し、営業費用については人件費等の販売費及び一般管理費が増加しましたが、営業利益は279百万円（前年同四半期は309百万円の営業損失）となりました。また、四半期純利益は、66百万円（前年同四半期は531百万円の純損失）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、前連結会計年度より報告セグメントを変更しており、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報を変更後の区分に基づき作成し、前年同期比を算出しております。報告セグメントの変更についての詳細は、「4. 四半期連結財務諸表（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「3 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載しております。

①株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションは、お客様に買い物を楽しんでいただくため、今までになかった独創的なワン・アンド・オンリーの空間の創造を目指しております。

各店舗では、書籍・SPICE(雑貨類)及びニューメディア（CD・DVD類）等の商材を融合させ、独自の「提案」を展開しております。

主な業態店舗としては、「遊べる本屋」をコンセプトにした「ヴィレッジヴァンガード」、大人も楽しめる空間を演出したライフスタイルショップ「new style」、本格的なアメリカンハンバーガーを提供する飲食店「ヴィレッジヴァンガードダイナー」、食べるコトの楽しさを提案する「HOME COMING」、アウトレット業態「Vintage Vanguard」などを運営しております。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は17,066百万円と前年同四半期と比べ683百万円（4.2%）の増収となりました。営業利益は94百万円（前年同四半期は674百万円の営業損失）となりました。なお、当第2四半期連結会計期間よりたな卸資産のうち、仕入から5年超経過したたな卸資産の残存価値について会計上の見積り方法を変更しております。この変更により、従来の方と比べて営業利益が467百万円増加しております。

店舗数につきましては直営店8店の新規出店、直営店15店、FC店1店の閉鎖をし、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は直営店383店、FC店11店の合計394店となりました。

②株式会社チチカカ

株式会社チチカカは、主にエスニック雑貨・衣料の企画販売を行っております。エスニックファッションの販売だけでなく、「世界の文化を伝えること」を使命と考え、お客様と生産者の「HAPPY」をつなげることを「HAPPY TRADE」と名付け、世界の仲間と共に成長することを心がけております。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は4,509百万円と前年同四半期と比べ879百万円（24.2%）の増収となりました。営業利益は225百万円と前年同四半期と比べ96百万円（△30.0%）の減益となりました。

なお、店舗数につきましては直営店10店の新規出店、直営店1店の閉鎖を行い当第2四半期連結会計期間末の店

舗数は、直営店134店、FC店1店の合計135店となりました。

③TITICACA HONGKONG LIMITED

TITICACA HONGKONG LIMITEDは香港において主にエスニック雑貨・衣料の企画販売を行っております。株式会社チカカ同様、エスニックファッションの販売だけでなく、「世界の文化を伝えること」を使命と考え、お客様と生産者の「HAPPY」をつなげることを「HAPPY TRADE」と名付け、世界の仲間と共に成長することを心掛けております。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は239百万円と前年同四半期と比べ77百万円(47.5%)の増収となりました。営業利益は25百万円と前年同四半期と比べ17百万円(△40.7%)の減益となりました。

なお、店舗数につきましては増減はなく、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、直営店5店舗となっております。

④その他

その他は、株式会社Village Vanguard Webbedにてオンラインでの書籍・SPICE及びニューメディアの販売、Village Vanguard (Hong Kong) Limited及びVillage Vanguard (Taiwan) Limitedにて香港及び台湾での書籍・SPICE及びニューメディアの販売を行っております。

また、比利■(上海)商■有限公司は主にエスニック雑貨・衣料の企画販売を行っており、当社グループの生産拠点及び、上海にて直営店を2店舗運営しております。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は425百万円と前年同四半期と比べ236百万円(124.5%)の増収となりました。営業利益は46百万円の営業損失(前年同四半期は32百万円の営業損失)となりました。

なお、Village Vanguard (Hong Kong) Limited及びVillage Vanguard (Taiwan) Limitedは賃貸借契約条件や今後の店舗損益を考慮して順次、事業を撤退することを決定しております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(イ)資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて12.9%増加し、26,487百万円となりました。これは、現金及び預金が1,173百万円、商品が2,000百万円増加したことなどによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて5.2%増加し、7,183百万円となりました。これは、建物及び構築物が220百万円、差入保証金が85百万円増加したことなどによるものです。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて11.2%増加し、33,670百万円となりました。

(ロ)負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて15.9%増加し、11,283百万円となりました。これは、買掛金が585百万円、1年内返済予定の長期借入金が781百万円、株主優待引当金が147百万円増加したことなどによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて21.9%増加し、10,261百万円となりました。これは、長期借入金1,848百万円増加したことなどによるものです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて18.7%増加し、21,544百万円となりました。

(ハ)純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2百万円減少し、12,125百万円となりました。これは、配当金の支払いが107百万円、四半期当期純利益66百万円により利益剰余金が38百万円減少、為替換算調整勘定が46百万円増加したことなどによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ1,181百万円増加し、2,800百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(イ)営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は308百万円となりました。

これは、主にたな卸資産の増加額1,982百万円、仕入債務の増加額567百万円があったためであります。

(ロ)投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は982百万円となりました。

これは、主に新規出店に伴う有形固定資産の取得による支出が700百万円、差入保証金の差入による支出が166百万円あったためであります。

(ハ)財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果獲得した資金は2,440百万円となりました。

これは、主に長期借入による収入が4,230百万円あったものの、長期借入金の返済による支出が1,600百万円、配当金の支払いが106百万円あったためであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年7月15日発表の平成27年5月期の通期の個別業績予想及び平成27年5月期の通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「平成27年5月期第2四半期累計期間業績予想と実績値の差異並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果をなす場合には、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)および「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文および退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務および勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間および支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務および勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が3百万円減少し、利益剰余金が3百万円増加しております。なお、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

会計上の見積りの変更

当社は5年超経過たな卸資産の販売戦略を明確化したことに伴い、当第2四半期連結会計期間より、たな卸資産の残存価値を変更しております。

この変更は、当社は従来、5年超経過たな卸資産についても通常のたな卸資産と同様に、主として定価販売していたため、当該販売方法による回収見込額にてたな卸資産の残存価値を算定していましたが、財務体質及びキャッシュ・フローの改善には、5年超経過たな卸資産の資金化、税務上の損失の実現等が不可欠と判断し、5年超経過たな卸資産の販売戦略として、アウトレット店、催事等を位置付けて販売したため、当該販売方法による回収見込額にてたな卸資産の残存価値を見直しました。

この変更により、従来の方と比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が467百万円増加しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,646	2,820
受取手形及び売掛金	2,492	2,379
商品	18,659	20,660
繰延税金資産	56	68
その他	602	561
貸倒引当金	△4	△3
流動資産合計	23,453	26,487
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,624	2,850
機械装置及び運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品(純額)	1,096	1,070
建設仮勘定	14	40
有形固定資産合計	3,735	3,962
無形固定資産		
ソフトウェア	240	249
その他	2	3
無形固定資産合計	242	252
投資その他の資産		
長期前払費用	273	307
繰延税金資産	38	38
差入保証金	2,536	2,621
その他	1	0
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	2,850	2,968
固定資産合計	6,828	7,183
資産合計	30,282	33,670

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,877	4,462
短期借入金	900	900
1年内償還予定の社債	20	10
1年内返済予定の長期借入金	2,792	3,574
未払金	956	866
未払法人税等	94	197
未払消費税等	63	118
株主優待引当金	98	245
賞与引当金	116	145
資産除去債務	35	43
その他	782	719
流動負債合計	9,738	11,283
固定負債		
社債	10	10
長期借入金	6,646	8,495
長期末払金	347	289
役員退職慰労引当金	249	277
退職給付に係る負債	242	247
資産除去債務	855	877
その他	64	64
固定負債合計	8,415	10,261
負債合計	18,154	21,544
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,242	2,242
資本剰余金	2,219	2,219
利益剰余金	7,662	7,624
株主資本合計	12,124	12,086
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	12	59
退職給付に係る調整累計額	△39	△41
その他の包括利益累計額合計	△27	18
新株予約権	30	20
純資産合計	12,127	12,125
負債純資産合計	30,282	33,670

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年11月30日)
売上高	20,240	21,990
売上原価	11,990	12,035
売上総利益	8,250	9,955
販売費及び一般管理費	8,560	9,676
営業利益又は営業損失(△)	△309	279
営業外収益		
仕入割引	29	13
業務受託料	36	36
その他	31	29
営業外収益合計	97	79
営業外費用		
支払利息	50	59
その他	24	3
営業外費用合計	75	62
経常利益又は経常損失(△)	△287	295
特別利益		
移転補償金	10	—
新株予約権戻入益	5	9
特別利益合計	15	9
特別損失		
固定資産除却損	3	20
減損損失	83	67
その他	—	6
特別損失合計	86	94
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△359	211
法人税等	172	145
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株 主損益調整前四半期純損失(△)	△531	66
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△531	66

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△531	66
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	2	46
退職給付に係る調整額	—	△1
その他の包括利益合計	2	45
四半期包括利益	△529	111
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△529	111
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整 前四半期純損失(△)	△359	211
減価償却費	367	391
減損損失	83	67
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	6
売上債権の増減額(△は増加)	△417	106
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,586	△1,982
仕入債務の増減額(△は減少)	212	567
その他	304	393
小計	△2,394	△238
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△49	△59
法人税等の支払額	△824	△10
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,268	△308
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△731	△700
無形固定資産の取得による支出	△40	△38
差入保証金の差入による支出	△143	△166
その他	△4	△76
投資活動によるキャッシュ・フロー	△920	△982
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△218	—
長期借入れによる収入	5,500	4,230
長期借入金の返済による支出	△1,500	△1,600
社債の償還による支出	△10	△10
長期未払金の増減額(△は減少)	3	△72
配当金の支払額	△107	△106
その他	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,667	2,440
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	31
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△522	1,181
現金及び現金同等物の期首残高	2,975	1,618
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,453	2,800

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年6月1日 至 平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表計上額 (注) 2
	株式会社ヴィレッジヴァンガード コーポレーション	株式会社チチカカ	TITICACA HONGKONG LIMITED	その他 (注) 3			
売上高							
外部顧客への売上高	16,327	3,570	162	179	20,240	—	20,240
セグメント間の内部 売上高又は振替高	55	59	—	9	124	△124	—
計	16,383	3,629	162	189	20,364	△124	20,240
セグメント利益又は損失 (△)	△674	322	43	△32	△341	31	△309

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額31百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は、Village Vanguard (Hong Kong) Limited、株式会社Village Vanguard Webbed、Village Vanguard (Taiwan) Limited、比利■カ(上海)商■有限公司が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年6月1日 至 平成26年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表計上額 (注) 2
	株式会社ヴィレッジヴァンガード コーポレーション	(株)チチカカ	TITICACA HONGKONG LIMITED	その他 (注) 3			
売上高							
外部顧客への売上高	17,066	4,408	239	276	21,990	—	21,990
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	100	—	149	250	△250	—
計	17,066	4,509	239	425	22,241	△250	21,990
セグメント利益又は損失 (△)	94	225	25	△46	299	△20	279

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△20百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は、Village Vanguard (Hong Kong) Limited、株式会社Village Vanguard Webbed、Village Vanguard (Taiwan) Limited、比利■卡(上海)商■有限公司が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「TITICACA HONGKONG LIMITED」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第2四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。